



Associação Crianças de LUZ

CANOVA

だより65 January 2020

文・写真_鈴木真由美 編集_星久美子・真野由紀 発行_光の子どもの会の会
Praia do Estevão s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP:62800-000
連絡先: info@criancasdeluz.org

私がカノアで保育園を設立したのが2000年。今年、2020年は、20周年となります。この20年前、まさかここまでブラジルと関わり、カノアとのつながりを持ち続けるとは、想像もしていませんでした。ご縁とは、本当に不思議なものです。初めての卒園児たちが保育園、プレ・エスコラ（小学校就学年前教室）、学童教室と、私達と共に成長し、今、子を持つ親になっている子ども達もたくさんいます。様々な人生を送っている彼らのことを思うと、この20年、本当に長いようで短かったと思わずにられません。

2019年は新たな道へ向けて出発する1年でもありました。エヴァさんが病に倒れ、カノアからサンパウロへと戻ることとなり、その後、カノア保育園をはじめとした現地での活動を中心に担っていたフラビアーニさんが2018年末をもって退職。長年勤めていたスタッフがなくなってしまうという状況の中、それでも、保育園や学童教室に子ども達を通わせている保護者の人達、エステヴァン村の人々。多くの人達が「この保育園、学童教室がこの村には必要だ!」と声をあげてくれ、2019年、新しい一歩を踏み出すこととなりました。不思議なことに、不安を打ち消すような人たちが、私達と一緒に働いていくことを望み、この難しい状況にと取り組んでくれました。長い間環境教育NGOのヘシクリアンサで勤めている、ジレーニ先生。青少年グループを立ち上げた時からずっと、村のためにと力を注いでくれているマリエッタ。そして、卒園児でもある、ブルーナ。3人という心許ないであろう現実の中で、彼女たちは本当に頑張ってくれました。そして2019年後半には、コライと呼ばれているニリアーニ先生が、私たちの元にやってきました（次ページにメッセージがあります）。

「存続することはできるのか?」そんな心配の中スタートした2019年。しかし2019年末を迎えてみると、心強いスタッフがそろい、今まで以上に村の子ども達のために奔放している姿を見ることができます。

20周年を迎える2020年。これからもご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします!



「光の子どもたちの会」の先生

今回は「光の子どもたちの会」の保育園

新しいスタッフからのメッセージです！ 翻訳: 鈴木真由美



私の名前は、ニリアーニ・ペレイラ・ドス・サントスと言います。でも、みんなは私のことを「Colay (コライ)」という名前で知っているかもしれませんが。少し私のことをお話ししたいと思います。

Niliane Pereira dos Santos
(ニリアーニ・ペレイラ・ドス・サントス)

私は14年間、ホテル業に従事していました。受付で仕事をしていたのですが、休暇も少なく、残業続きで娘（ソフィア：7歳）の顔を見ることができない日も多くありました。待遇改善もなく、心身がすり減っていく中で、今、ようやく夢であった教育の分野で仕事ができる機会を得ました。それと同時に、私はヴァリ・ド・ジャグアリビ大学の教育学部に入学しました。久しぶりの学生ということもあり、私は自分の最大限の力を使って、今、勉学に励んでいます。

2019年9月から私は、私たちの村、エステーヴァン村にある、光の子どもたちの会が運営する保育園と学童教室で働き始めました。私はこの仕事がとても好きになり、村の子ども達のために私ができることは何でもやっていきたい！と心から思っています。なぜなら、私はこの村で生まれ育ち、この村で暮らし続けていきたい。そう強く願っているからです。

光の子どもたちの会が運営している保育園や学童教室は、私たちの村にとって、大きな意味を持つ場所です。たくさん子ども達がこの保育園や学童教室で過ごし、自分の道を見つけて歩み始めています。そして、ここで働いている先生は皆、光の子どもたちの会、日本の皆さんからの支援を受け、大学を卒業し、教師という職業に就くことができたのです。高校に行くこともままならなかったこの村の人達が、今、この村だけではなく、ブラジルの他の地域でも教師として活躍できていることは、皆さんのおかげだと、私は強く感じています。だからこそ、私自身もきちんと大学を卒業し、教師として独り立ちをすることで、光の子どもたちの会が運営している保育園や学童教室を支えていけたらと思っているのです。ぜひ皆さん、私が大学を無事卒業できるよう、ご支援ご協力いただけませんか？

大学は4年間。休学することなく、ぜひ通学していきたくて考えています。そして、一人の人間として、教師として成長し、私たちの村、エステーヴァン村に貢献していきたくてです。

皆様ぜひ、よろしくお願い致します！



【学資支援のお願い】

大学に通うためには 毎月17,500円（月謝、交通費込み）ほどかかります。ニリアーニ先生が無事大学を卒業できるよう、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

※会費（年間5,000円）とは別にご支援いただける方は、「学資支援」と明記のうえ、お振込みいただけますよう、お願いいたします。

新しい給食のおばさんがやってきた！

2018年末。長く私たちと一緒に働き、美味しい給食を作ってくれていたマリアさんが定年退職を迎えることとなりました。私たちは彼女の今までの功績をたたえ、学童教室の子ども達と教職員による劇を披露しました。しかし退職に向けた手続きは思っていたようには進まず、2019年になっても、マリアさんは退職することができずに子ども達のために給食を作り続けてくれていました。ただ、マリアさんは持病の糖尿病に加え、神経痛など、仕事ができる体力を維持することが難しく、長期の療養をすることもありました。そんなとき、アラカチ市政府からは補強要員どころか、マリアさんが休職中に代理人が来ることさえありませんでした。

私たちの保育園は、アラカチ市教育局の認可を受けているため、教材や食材、そして給食のおばさんと用務員という2名の職員を派遣してもらっていました。しかし学童教室を1クラス閉校しなければならなくなった時、用務員の派遣を続けることは難しいというアラカチ市教育局からの通達により、給食のおばさんであるマリアさんのみが残ることとなりました。いつ、マリアさんは退職するのか。体調が不安定であるマリアさんとの日々は、教職員にとって大きな負担となっていました。

そして10月末。ようやくマリアさんの退職が決まりました。マリアさん自身も肩の荷が下り、ほっとしたことでしょう。そして11月より、新しい給食のおばさんがやってくることとなったのです。彼女の名前はマリレーニさん。近隣の村である、コーヘゴというところに住んでいます。彼女自身は20年近く、コーヘゴにある公立小中学校の給食のおばさんとして働いていました。しかし2018年末をもって職を失い、新しい職場としてようやく、エステーヴァン村に来ることが決まったのです。初めは慣れない中、不安そうにしている姿を見かけることが多かったのですが、1カ月が経ち、教職員とも上手にコミュニケーションをとることができるようになったことで、笑顔を見る機会が増えました。

新たに加わった、マリレーニさん。これからどうぞ、よろしく願います！！

子育て日記より

娘たちは小学6年生と中学3年生となり、一緒に歩いていても私が一番小さくなってしまいました。日本とブラジルを行き来する中で、彼女達自身大変なことたくさんあったらと思うのですが、彼女たちは持ち前の明るさと前向きさで、日本でもブラジルでも、たくさんの人達に囲まれ、暮らすことができます。先日、「母語というのは、自分が自信をもって伝えることのできる言葉である」ということを学びました。娘たちにとって、“母語”と呼べる言語は日本語なのだろうか？それともポルトガル語なのだろうか？娘たちに聞いてみると、次女は日本語と答え、長女は分からないと答えました。ただ何よりもよかったと思えることは、私の母語である日本語を理解し、深い話でも日本語で伝えることができるということでした。自分の思い、考えを娘たちに伝えたいと思った時、娘たちが日本語を理解してくれなければ、難しかったらと思う場面が多くあります。娘たちがこれから成長し、大人になっていくとき、自分の思いや考えを自信をもって伝えることができること。それが母親として、私は何よりも嬉しいのです。

国内活動＊Atividade no Japão

●ブラジル料理教室、参加者募集中！

はじめまして。光の子どもたちの会の代表をしている鈴木真由美の弟で、鈴木康介と言います。

パン職人ということもあり、もともと料理が嫌いではないので、姉がブラジルに行っていて日本にいないときでも、5才の娘と一緒に参加させてもらっています。

姉は日本でブラジル料理を作ることがないので、僕が小学生のときにブラジルに行ったときに食べた料理が食べれて、嬉しいです。

色々な人と出会えることも、楽しみの一つです。ブラジルや、料理に興味がある人が集まり、楽しく過ごせるだけでなく、いつもボリュームたっぷりの料理が食べられます。

ぜひ皆で美味しい料理をたべましょう！

会場：大田区ライフコミュニティ西馬込

スケジュール、参加申し込みは

フェイスブックから！



●総会を開催します！

2020年3月22日（日）13:00～ @JICA横浜（予定）

「特定非営利活動法人 光の子どもたちの会」の総会を開催することとなりました。

別紙にて出欠席のお知らせをさせていただきます。2月に実施される現地視察についての報告をさせていただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

●秦野市教育委員会の人達と、アラカチへの現地視察に行きます！

JICA草の根技術協力事業として2015～2018年に実施していた、「ブラジルセアラ州アラカチ市における人材育成を通じた地域子育て支援プロジェクト」の事業後調査として、秦野市教育委員会から2名の方がJICA、光の子どもたちの会と共に現地調査をすることとなりました。

2019年に実施した事後調査において課題としてあげられたのは、「授業内容及び指導方法の共有」「授業の質を上げるための方法」の2つでした。

そこで、この2つに対する講演やワークショップを秦野市教育委員会の方々に実施してもらうことになったのです。

2月7日～19日（秦野市の方は13日まで）に実施される現地視察。また次号のCANOAだよりでその様子をご報告させていただきますね。

学生紹介＊Apresentação de estudante



谷田 杏佳

去年大学のスタディーツアーで小貫大輔教授とブラジルに訪問した際にブラジルの面白いさや人の暖かさを感じた。そして今回、ブラジルで自分探しをしたくブラジルへ訪問。2019年8月から3ヶ月間サンパウロ州にあるassociação Monte Azul(モンチアズール)でボランティアをしたのち同年10月末からセアラ州にあるassociação Crianças de LUZで活動中。

ブラジル北東部セアラ州、アラカチ市のエステーバン村に着いてから1ヶ月半経ち、滞在期間はもうすでに残り1ヶ月を切りました。

平日の午前はこの村の伝統手工芸「ラビリント」、午後は学童「光の子どもたちの会」でお手伝いをしています。ラビリントはランチョンマットやドレスにも使われていて、この地域特有の伝統手工芸です。まだ刺繍できるデザインの種類は少ないけれど、1人で刺繍できるようになりました。刺繍が完成した時の達成感とこの村の伝統手工芸を体験できていることがとても嬉しく、熱中して日々練習を重ねています。

学童では私が日本の小学校を通っていた頃とは違う環境にいる子ども達と過ごせて、毎日多くのことを学んでいます。例えば、砂丘に登って滑り台みたいに滑り落ちたり、木に登って生き物を触ってみたり、普段の会話で声の強弱や体を使って会話する子ども達を見て、子どものエネルギーの強さを実感します。そして最近、数日後にクリスマス会があるため日本語のクリスマスソング「あわてんぼうのサンタクロース」を子ども達に教えました。彼らは少しでも空いている時間があると自然とこの歌を歌ってしまうほど、気に入ってくれました。

この村に来て、子ども達と一緒に同じ遊びをしたり、伝統手工芸を学べる日々がとても新鮮で楽しいです。



ありがとうございます＊Obrigado

2019年4月23日～2019年11月15日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

これからも一人でも多くの方に会員になって頂き、カノアの活動を共に支えていただけると嬉しいです。

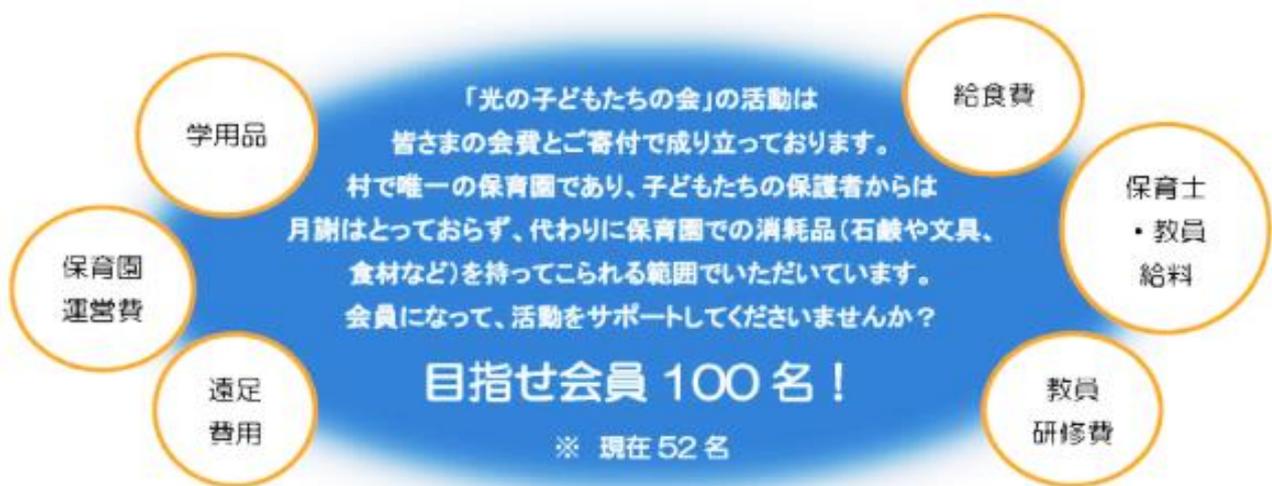
目標会員100名！！

会費及び寄付を頂きました皆様（順不同）

石田まどかさま・石田ルイザさま・大谷タカコさま・加藤恵美子さま
桑山寛子さま・村上誠さま

物資支援をいただきました皆様（順不同）

NPO法人MAIKEN・横浜市立栗田谷中学校



年会費(5,000円)・ご寄付のお振込み方法

1. 自動引き落とし

お持ちの口座の金融機関で手続きができます。引き落とし日、金額をご指定いただけます。尚、ゆうちょ銀行からお振込の場合は以下の【2. 郵便振替】と同じ口座番号ですが、他金機関からの振込の場合には、【3. ゆうちょ銀行振込】の口座番号となりますのでご確認ください。

2. 郵便振替

口座番号 00280-1-41787
加入者 光の子どもたち・カノアの活動を支える会

3. ゆうちょ銀行振込

名義 光の子どもたちの会 店名 O二八(ゼロミハチ)
店番号 928 普通 口座番号 5552598

くわしくは、HPを
ご覧ください！



http://criancasdeluz.org/initial/index_jp.html

問い合わせ先：代表 鈴木真由美 日本事務局長 堀池眞輔
〒221-0841 神奈川県横浜市神奈川区松本町1-7-1
☎045-321-1824 info@criancasdeluz.org

“なつみ”からの手紙*Uma carta de Natsumi



アッサラマレークン。マレクンサラーム。

以前にもこのカノアだよりに報告させてもらいました。西アフリカのセネガルから藤本夏実です。帰国を一カ月先に控えての心境は、うーん。ここまで近づくと『早く帰りたい』というのが正直なところです。いつでもどこでも仲良くなった人と別れることが、寂しいのは変わりませんが、やはり生まれ育ったところが好きなんだなあと、ここに来て再確認しています。

ここセネガルで、主に幼稚園の子ども達との製作や算数の基礎となる活動を通して、子どもが楽しみながら、つまり『遊びながら学ぶ』ことを教育現場の人たちに紹介してきました。セネガルは幼稚園のうちから、黒板に向かっての読み書き、先生の言ったことを復唱して覚える、そして先生の見本通りに出来ることが良しとされています。教員たちが、どうしたら私の考えた活動を取り入れてくれるのか、セネガルの教育指導要領を読み、日本の本を参考にし、試行錯誤して提案してきました。彼らの為、と思ってやっていたが、むしろ多くのことを気付かされたのは私の方でした。自分が小さかった頃のことを思い起こしながら、教育の在り方について考える機会をもらった2年間だったかもしれません。

私が、きっと皆さんも、小さな時から当たり前としてやっていることが、実は算数の元となっています。例えば、おもちゃの片付けです。人形は人形のところへ、おままごとはおままごとのところへ、本は本のところへ、と物を識別し、まとめること、食卓で一人ひとりに、一对の箸・茶碗・お椀などを並べることも、算数の基礎となっています。私の小さい時の環境には無数に算数の基礎ならぬ算数の卵なるものがあったのだと驚きました。同時に、教育の奥深さを感じました。最近よく、子どもの頭を良くするおもちゃなどがありますが、その前に、私が小さい頃から常にやってきたことを大切にしていきたいと思っています。

夢んでいたアフリカ大陸に足を踏み入れ、そのうちの一つの国セネガルで生活してきました。想像していた様には上手くいかないことも沢山ありました。ただ、ここにもまた訪ねて行きたい友達ができたと、それがとても嬉しいです。いつかまたセネガルに戻って来たいです！！

